

折に触れ 四字熟語

NO. 272 『哀鴻遍野』 あいこう へんや

< 意味 > いたる所に悲痛な叫び声をあげる難民があふれているさま。野のいたる所に、悲しげな鳴き声をあげるかりがいる意から。「哀鴻野に遍し」と訓読する。

< 出典 > 『詩経』小雅・鴻雁「鴻雁干に飛び、哀鳴すること嗷嗷たり」（かりが飛び、悲しげに鳴く声はげしく聞こえる）

語 釈：「鴻」は大型のかり。水鳥。「哀鴻」は悲しげに鳴きながら飛ぶかりで、流浪の民のたとえ。「遍野」は野原のあらゆる所での意で、数の多いことをいう。ひとみ・目玉。転じて、物事の大切なところの意。

一 言：イスラエルとイスラム組織ハマスの軍事衝突はこれまでにない大規模な戦いになっています。これによりガザ地区の住民100万人が家を追われているとの報道もあり、まさに<意味>にある通りの状況となっているのではないのでしょうか。

参照文献：岩波書店「四字熟語辞典」